

科目名 Course Name	保育内容の理解と方法Ⅱ Understanding and method of nursing contents Ⅱ			ナンバリング No.	K1-013		
年次	1 年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	岡泉志のぶ						
連絡先(質問等)	岡泉研究室(講義棟 3 階)にて、またはメールで対応する。						
必修/選択	選択(保育士養成課程必修)						
関連 DP	DP2、DP3、DP5						
授業の概要と 到達目標	<p>子どもの成長過程の中で、子どもと音楽との関わりは欠かせないものであり、音楽的な豊かな感性を育てるためには、保育者として、子どもたちの音楽的な成長を促すための表現活動の提供が必要となる。この授業では、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽の基礎的な知識や技術を身につけ、模擬保育(弾き歌いの実践)から保育内容の理解と方法の習得を図る。</p> <p>この授業の到達目標は以下の 4 つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 音楽的理論を鍵盤奏法と関連付け、読譜力を身につけ、演奏することができるようにする。 ② 基本的な伴奏法とベースライン奏法を学び、簡単な伴奏で幼児曲を伴奏することができるようにする。 ③ 各年齢に適した教材(日常のうたや季節のうた)を選定し、歌唱指導と弾き歌いを実践することができるようにする。 ④ 子どもの音楽的成長と発達を配慮した指導計画を立て、発達に応じた表現活動を展開することができるようにする。 						
授業の方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れたアクティヴ・ラーニングの授業形態で音楽的な実践力の習得を図る。発表では、グループでの歌唱指導と指導計画案を考え、模擬保育として幼児曲の弾き歌いを実践し、総合的な音楽表現の知識と技術を習得する。						
学習成果	L01	音楽の基礎知識を学び、読譜力を身につけることができる。模擬保育において、保育内容の理解を深め、子どもの音楽的環境から簡単な伴奏法の習得を図ることができる。					
	L02	日常や季節のうたを選曲し、その伴奏を用いて弾き歌いをする事ができる。音楽的な表現活動へ展開するために必要な音楽的技術を習得し、教材の選定と指導内容の計画を立案することができる。					
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック	各授業にて事前事後で学習したことを「確認シート」に記入して提出し、課題レポート 30%(各 10 点)については、次回の授業で返却する。発表においては、13、14 回目の発表時に指導計画案の提出と同時に講評を記入して最終授業にて返却する。						
教科書/ 参考図書	テキスト: 幼児のための音楽教育(教育芸術社) 随時、プリントや楽譜などを配布する。 参考図書: 幼児曲集(様々な出版社から幼児曲の楽譜が出版されている)						
履修上の留意点 やルール等	●私語や居眠りなど授業態度が悪い場合は減点となる。●携帯電話(楽曲を調べる以外)は使用禁止、飲食厳禁である。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。						
担当教員の実務 経験	●実務経験(職種:ピアノ講師 職歴:通算 20 年) ピアノの指導経験で、学生の習熟度に合わせた選曲、伴奏を選定し、個々の学生に合わせた弾き歌いの実践を指導する際に活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	積極的に授業に参加し、グループ活動に積極的に参加する。事前事後学習の確認シートには学習内容を記入し、積極的な学習ができてきているかで評価する。	20			
レポート/作品	配布資料を使用して授業を進め、記入後に提出する。(各 10 点×3)		30		

発表	幼児曲の弾き歌いをグループ発表にて行う。模擬保育として1人ずつ指導計画に基づいた弾き歌いの実践をし、子どもが楽しんで歌える伴奏法であり、且つ音楽的表現を含んだ弾き歌いの実践ができることで50点(満点)とする。		50		
小テスト					
試験	試験は筆記試験として50点の配点とする。				
その他					
合計			20	80	

回数		授業計画
1	授業内容	授業概要、学習成果、成績評価、授業での諸注意、幼児曲について
	事前・事後学習	授業で紹介した幼児曲の譜読みをして楽曲の構成、旋律、実際に歌って練習する。事前・事後学習は、各回「確認シート」を記入して提出する。
2	授業内容	音楽理論:音符と休符、拍子とリズムについて① 歌唱:季節のうたと指導法
	事前・事後学習	譜読みの訓練をして楽譜の理解を深める。季節のうたを実際に伴奏して練習する。
3	授業内容	音楽理論:音符と休符、拍子とリズムについて② 歌唱:日常、行事のうたと指導法
	事前・事後学習	譜読みの訓練をして楽譜の理解を深める。日常のうたを実際に伴奏して練習する。
4	授業内容	音楽理論:音階と調 旋律と伴奏について
	事前・事後学習	引き続き、季節のうたと日常のうたを弾けるように練習する。
5	授業内容	幼児曲演習:基本的な伴奏法
	事前・事後学習	ピアノ初心者であっても基本的な伴奏を用いることが学習できたら、実際に簡単な伴奏法で幼児曲を練習する。
6	授業内容	幼児曲演習:簡易伴奏法とベースライン奏法
	事前・事後学習	簡単な伴奏法で幼児曲の練習をする。
7	授業内容	乳幼児の音楽的成長と発達 歌唱の実践
	事前・事後学習	子どもの発達に相応しいうたのリストを作成する。メロディをピアノで弾いて歌いながら年齢に応じた教材を選定する。(次回に続く)
8	授業内容	乳幼児の生活と遊び 弾き歌いの実践
	事前・事後学習	子どもの発達に相応しいうたのリストを作成する。メロディをピアノで弾いて歌いながら年齢に応じた教材を選定する。(次回に続く)
9	授業内容	感性と表現の教育、保育者の役割
	事前・事後学習	子どもの発達に相応しいうたのリストを作成する。メロディをピアノで弾いて歌いながら年齢に応じた教材を選定する。
10	授業内容	表現活動の指導法①(歌唱表現活動の導入) 幼児曲演習:各グループレッスン①
	事前・事後学習	発表曲の最終選定をし、弾き歌いの実践に向けた練習をする。
11	授業内容	表現活動の指導法②(歌唱表現活動の実践) 幼児曲演習:各グループレッスン②
	事前・事後学習	発表曲の弾き歌いの練習をする。(次回に続く)
12	授業内容	表現活動の指導法③(指導計画の実践) 幼児曲演習:各グループレッスン③
	事前・事後学習	発表曲の弾き歌いの練習をする。
13	授業内容	弾き歌いと歌唱表現の実践:グループ歌唱と弾き歌いの発表①
	事前・事後学習	指導案を完成させ、弾き歌いの実践(模擬保育)を行う。
14	授業内容	弾き歌いと歌唱表現の実践:グループ歌唱と弾き歌いの発表②
	事前・事後学習	指導案を完成させ、弾き歌いの実践(模擬保育)を行う。
15	授業内容	幼児曲の指導法と指導計画案のまとめ 発表後の講評
	事前・事後学習	各自の講評を基に、引き続き弾き歌いの実践ができるよう復習して練習をする。